選者プロフィール　（敬称略、順不同）

＜短　歌＞

田　宮　朋　子

昭和２５年新潟県長岡市（旧寺泊町）生まれ。昭和５５年、コスモス短歌会入会。平成１４年、角川短歌賞受賞。歌集『雛の時間』『星の供花』『雪月の家』『一滴の海』『光に濡れる』。現代歌人協会会員。宮柊二記念館運営委員。NHK 学園講師。現在、「コスモス」選者。朝日新聞「新潟歌壇」選者。小千谷市富久寿大学講師。

小　島　な　お

昭和６１年東京都生まれ。平成１６年、角川短歌賞受賞。平成１９年、コスモス短歌会入会。歌集に『乱反射』（現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞）、『サリンジャーは死んでしまった』、『展開図』、『卵降る』。令和４年４月、『短歌部、ただいま部員募集中！』を刊行。平成２８年度、令和２年度『ＮＨＫ短歌』選者。信濃毎日新聞歌壇欄選者。新・介護百人一首選考委員。歌壇賞選考委員。

松　田　愼　也

昭和２７年生まれ。「鼓笛短歌会」代表。月間歌誌『鼓笛』を平成２５年より毎月１日に刊行。「第３４回国民文化祭・にいがた２０１９、第１９回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会　詩（ことば）フェスティバル」短歌部門選者。日本歌人クラブ甲信越ブロック長。現代歌人協会会員。

＜俳　句＞

神　野　紗　希

愛媛県松山市生まれ。高校時代、俳句甲子園をきっかけに俳句をはじめる。平成１４年芝不器男俳句新人賞坪内稔典奨励賞受賞。
令和元年、桂信子賞。平成３０年、『日めくり子規・漱石』（愛媛新聞社）で第３４回愛媛出版文化賞大賞。近刊に句集『すみれそよぐ』、評論集『俳句は肯定の文学』、エッセイ集『アマネクハイク』他。
日本経済新聞俳壇選者、現代俳句協会常務理事、俳句甲子園審査員長など。

髙　田　正　子

昭和３４年岐阜県生まれ。令和６年１月「青麗」創刊、主宰。句集に『玩具』、『花実』（第２９回俳人協会新人賞）、『青麗』（第３回星野立子賞）、『自註現代俳句シリーズ　髙田正子集』。本年第４句集『紅藍』刊行。著書に『子どもの一句』、『黒田杏子の俳句』、『日々季語日和』、『黒田杏子俳句コレクション』全４巻。俳人協会理事、中日新聞俳壇選者、田中裕明賞選者、俳句甲子園審査員長など。

川　崎　陽　子

昭和１２年新潟市生まれ。昭和５６年「河」入会。昭和６６年同人。同年角川春樹賞受賞。平成１５年新潟県俳句作家協会賞受賞。平成１６年俳人協会大賞準賞受賞。句集『朱鷺の島』『菊越後』『帰心』『写真の中』。俳人協会会員。新潟県作家協会会員。「新潟ジュニア俳句大会」「朝日新聞俳壇（新潟版）」選者。歯科医師。

＜俳　句＞

山　本　　浩

昭和１１年小千谷市生まれ。小学４年生から俳句に興味を持つ。昭和４４年日報俳壇賞受賞。平成１４年に２回目、１７年には春秋の連続２回、令和元年に５回目の日報俳壇賞受賞。「花守」「風」会員を経て現在「青麗」会員。平成１９年藍生賞受賞。俳人協会会員。

吉　原　幸　男

昭和１９年生まれ。昭和３７年より「雪解」（皆吉爽雨主宰）、昭和４０年より「花守」（志城柏主宰）を経て平成１４年「天為」（有馬朗人主宰）会員。第１２回雪梁舎賞受賞。江戸時代から続く片貝町の「時雨句会」世話人。

＜川　柳＞

山　倉　洋　子

昭和１７年五泉市生まれ。第２回オール川柳大賞受賞。著書に『川柳句集　卑弥呼』『卑弥呼書評集』。新潟県川柳連盟顧問。新潟日報文芸欄川柳選者。

山　﨑　草　太

昭和１７年生まれ。川柳公論社「川柳はいふう」会員。一般社団法人川柳文化振興会、会員。「長陵川柳会」顧問。長岡新聞「悠久文芸」川柳選者。

＜詩＞

八　木　幹　夫

詩人。昭和２２年神奈川県生まれ。『野菜畑のソクラテス』で現代詩花椿賞・芸術選奨文部大臣新人賞受賞。著書「渡し場にしゃがむ女ー詩人西脇順三郎の魅力」等。現在、丸山薫賞選考委員。産経新聞「朝の詩」選者。日本現代詩人会会員。余白句会所属。